

(公社) 日本分析化学会
高分子分析研究懇談会
会員各位

高分子分析研究懇談会
運営委員長 佐藤 信之

第 379 回 例会開催のご案内

第 379 回例会を下記のように開催致します。万障繰り合わせの上、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。今回は約半年ぶりに、名古屋で開催いたします。中部、関西方面の会員各位の積極的なご出席をお待ちしております。

記

主催 (公社) 日本分析化学会 高分子分析研究懇談会

日時 2015 年 9 月 30 日 (水) 13 時 30 分 ~ 16 時 50 分

場所 ウィンクあいち
(愛知県産業労働センター)
13F 1303 会議室

(電話 052-571-6131,
JR 名古屋駅桜通口か

ら

徒歩 5 分)

会場案内図 <http://www.winc-aichi.jp/access/>



開会のあいさつ (13:30 ~ 13:35)

(東レリサーチセンター) 佐藤 信之

講演 1 (13:35 ~ 14:35)

「環状高分子ならびにその同族体の高分解能 HPLC による精密分析」

(名大院工) 高野 敦志

環状高分子は縮合高分子中にも存在することが確認されており、実は身近な高分子材料において実用に供しているものもある。しかし、その単離は難しく、これまで環状高分子単体の物性についてはあまり知られていなかった。しかし、最近、高分解能 HPLC 技術の発達により、極めて純度の高い環状高分子の合成・単離が可能になり、その物性について解明されつつある。また、環状高分子に線状高分子が連結して形成された、例え

ば「おたまじゃくし型高分子」や「ダンベル型高分子」が特徴的な物性を示すことも報告されている。本発表では、このような環状高分子，ならびにその同族体分子の合成，単離，その基礎物性について最新データを紹介する。

ワークショップ1 (14:35 ~ 15:05) [第19回高分子分析討論会 ポスター賞]
「ヤモリテープによる Py-GC/MS に有用な新規サンプル保持法」

(都立産業技術研究センター) 神谷 嘉美

高分子の劣化に伴う分子構造の変化を評価するための手法として，熱分解ーガスクロマトグラフィー／質量分析法(Py-GC/MS)や反応熱分解ーGC/MS (THM-GC/MS)は広く利用されている。しかしながら，極微量かつ粉末状の試料を熱分解分析する場合には，試料の取り扱いに細心の注意を必要としていた。そこで今回は，Py-GC/MS と THM-GC/MS における粉末状の極微量試料のサンプリング採取法の煩雑さの解消を目的として，日東電工株式会社が開発したヤモリテープ(Gecko Tape)の利用を考えた。高分子材料の中でも耐薬品性が高く，分析手法に制約の多い漆塗膜を対象として検討した結果，有用であることが示されたので，その成果を紹介する。

休憩 (15:05 ~ 15:20)

ワークショップ2 (15:20 ~ 15:50) [第19回高分子分析討論会 ポスター賞]
「凍結切断レプリカ法による液中分散微粒子の電子顕微鏡解析」

(日本電子) 中山 智香子

液中に微粒子を分散させた顔料・食品・薬品等の諸特性を評価し，その本質を理解するためには，微粒子そのものの性質や形態の解析のみならず，溶液中での濃度や分散・凝集状態を知ることが重要である。

そこで我々は，液中に分散している微粒子の解析に凍結切断レプリカ法による TEM 観察を用いてきた。この方法の利点には，1) 希釈不要，2) 溶液中での分散状態を保持，3) 微粒子そのものの構造観察・分析が可能，4) 熱力学的に不安定なエマルション等の観察が可能，などが挙げられる。今回は本法を用いて，無機微粒子や高分子系の微粒子等の液中における分散・凝集状態の解析方法を検討したのでご紹介する。

講演2 (15:50 ~ 16:50)

「ポリマーアロイにおける構造ー物性制御」

(東工大院理工) 扇澤 敏明

高性能・高機能な高分子材料を得るためには，混合・複合化が欠かせない。ただし，単純な複合化では所期の性能・機能を得ることは通常不可能である。混合系では相分離

構造が物性を支配していることから、その両者の制御が中心課題となる。ここでは、まずポリマーアロイにおける相分離構造に基づく物性発現機構についていくつかの例を示し、相分離構造制御の重要性を説明する。その上で、相溶性や相分離構造形成メカニズムといった構造制御を行う上で基本的な概念について解説する。

申込方法 参加希望者は、9/24（木）までに、研究懇談会ホームページ (<http://www.pacd.jp/index.html>) の「参加申込フォーム」に必要事項をご記入のうえ、お申し込み下さい。また、必要事項を記載した電子メールでもお申し込みいただけます。その際、電子メールの件名を「379 回例会申込」として下さい。ホームページ、電子メールでの申し込みがいずれも困難な場合は、別紙の参加申込書にご記入のうえ、FAX でお送り下さい。

申込先, 問い合わせ先

三菱レイヨン(株) 大竹研究所 基礎解析センター 百瀬 陽

[電話 : 0827-53-8509, FAX : 0827-53-8514, E-mail: pacd-reikai-info@pacd.jp]

高分子分析研究懇談会 第379回例会参加申込書
 (2015年9月30日(水) 13時30分～ 於：ウイंकあいち)
9/24(木)までにお申込下さい

FAX：0827-53-8514 (三菱レイヨン：百瀬)

氏 名	
勤 務 先	
電子メールアドレス	
連 絡 先 (電話/FAX)	
例 会	() 参加する () 参加しない どちらかに○をつけて下さい。
交 流 会	今回は開催しません。
例会での講演、 あるいはワーク ショップを引き 受けていただけ ますか。	◇引き受けられる 講演テーマ (60分) 【 】 ワークショップテーマ (30分) 【 】
例会における講 演テーマ、講師 などに関してご 希望・ご意見な どがありました らお願いしま す。	◇講演テーマ 【 】 ◇講師 【 】
研究懇談会への ご意見、連絡事 項など(会員の 変更事項や近況 報告など)あり ましたらお書き ください。	